

2017年1月17日

公益社団法人消費者関連専門家会議(ACAP)

第32回 2016年ACAP消費者問題に関する「わたしの提言」
中学生を対象とした「消費生活に関する作文コンクール」

東京都立白鷗高等学校附属中学校の富井かん菜さんが最優秀賞を受賞

企業や団体の消費者関連部門の責任者・担当で組織する公益社団法人消費者関連専門家会議(通称・ACAP＝エイキャップ、所在地:東京都新宿区)では、ACAP消費者問題に関する「わたしの提言」の実施に併せて、これからの時代を担う中学生を対象に、「消費生活に関する作文コンクール」を実施しています。

今回は、エシカル消費や環境問題、消費者と生産者の関係、消費者被害の未然防止など、さまざまなテーマで、各地より335作品の応募がありました。どの作品も、身の回りで起きている消費生活に関する問題に真剣に向き合い、その解決策について自らの考えをまとめていました。

厳正なる審査の結果、最優秀賞には東京都立白鷗高等学校附属中学校2年生の富井かん菜さんの「消費者という立場」が選ばれました。

ACAPでは若年層の消費者問題に関する意識の醸成を目指して、今後も本作文コンクールを積極的に展開してまいります。

1. テーマ

消費生活に関する作文として、題名は自由。

2. 応募状況

項目	内 訳
応募数	335 品(学校応募 96.4%、個人応募 3.6%)
応募者の学年	1 年生 25.4%、2 年生 70.7%、3 年生 3.9%
応募者の地域	東京都 91.6%、千葉県 1.8%、岐阜県 1.2%、島根県 2.1%、高知県 1.2%、沖縄県 2.1%

3. 審査状況

(1)一次審査(2016年11月7日、9日実施)

応募335作品より10作品を選出。 *審査員は、ACAP会員(消費生活関連の有資格者等)

(2)本審査(2016年12月2日実施)

10作品から各賞を選出。

＊本審査員

＜審査委員長＞	日本消費者教育学会会長	東 珠実氏
＜審査委員＞	公益社団法人全国消費生活相談員協会理事長	吉川萬里子氏
	光風法律事務所・代表弁護士	松田 恭子氏
	消費者庁審議官	福岡 徹氏
	公益社団法人消費者関連専門家会議理事長	坂倉 忠夫

4. 審査結果

賞	題名	氏名	所属等
最優秀賞	消費者という立場	とみい かなな 富井 かん菜	東京都立白鷗高等学校附属中学校2年 (東京都在住)
優秀賞	正しい消費者になるために	つつみ 堤 かなえ	岐阜市立加納中学校3年 (岐阜県在住)
入選	未来へ繋げよう地球に優しい暮らし	うえき 植木 りせ	浦添市立浦西中学校2年 (沖縄県在住)
入選	寄りそう心づかい	すぎむら そう 杉村 奏	東京都立白鷗高等学校附属中学校2年 (東京都在住)

■各受賞作品はACAPホームページ(<http://www.acap.or.jp/>)に掲載いたします(1月下旬掲載予定)。

＜最優秀賞(全文)＞

消費者という立場

東京都立白鷗高等学校附属中学校2年 富井かん菜

みなさんは、自分が食べているものがどんな人によって作られ、その人がどんな苦勞をしているのか、考えたことはありますか。私は、小学校四年生のとき、生産者の立場の話を読んで、それを知りました。

ある日の道徳の時間のことでした。その日読むのは、インドネシアの少年の話でした。話の内容はこうです。その少年の家はエビの養殖場を営んでいました。彼の父は、息子に大きなエビと小さなエビを見せて、こう言いました。この大きいエビが日本への輸出用で、これがお前の夕食だ、と。それを聞いた少年は、父が一生懸命育てたエビを日本人はきっと美味しく食べているのだらうと期待をしました。

数年後、少年は日本に留学生としてやって来て、歓迎パーティーへ招待されます。そこのレストランで少年は、多くのエビ料理が残され、廃棄されていくのを見て、ショックを受けてしまいます。私はこの話を読んで、強く心を動かされたのを今でもよく覚えています。捨てられていくエビを見て、少年は何を思ったのでしょうか。たとえそれが彼の父が育てたものでなくとも、食べ物を育てる立場の人からすれば、とても悲しかったと思います。

私はこの話を受けて、私たち消費者は二つの感謝の心を持つべきだと考えました。

一つ目は、食べ物を育てて下さった方への感謝の気持ちです。食べ物を育てるには、多くの労力と時間が必要になります。生産者の方は、見ず知らずの私たちのために育てて下さっているのです。そんな努力の結晶を残したりせず、大切に食べるべきだと思います。

二つ目は、自分の生まれ育った環境への感謝の気持ちです。日本はアジアの他の国々よりは恵まれていて、食べ

物に困ることはありません。しかし、食べ物を輸出して下さっている方々の中には、少年の父のように自分の息子には豪華な食事を食べさせることができない方もいらっしゃると思うのです。それなのに、日本では毎日毎日たくさんの食料が残され、捨てられています。これでは、回るべき食料が世界中に回っているとはいえません。だから、私たちは食事をとれるという幸せに感謝し、自分の食べられる量だけ調理また注文し、出されたものはすべて食べるべきだと思います。

このように、普段の食事を見つめ直すだけで、大切な感謝の心を見つけることができました。その中で一つ、思ったことがあります。それは、人は誰もが消費者であり、時には生産者である、ということです。つまり、人はみんな誰でも一人では生きてゆけないから、支え合って社会を形成し、生きているのです。消費という行為で人は世界と繋がっている、世界中の「人」と繋がっている、そう思うと、何だか世界が違って見え、争いもいつかは無くなるのではないかな、と思いました。

公益社団法人消費者関連専門家会議(ACAP)

事務局長代理 茨木 彰彦 TEL : 03-3353-4999 E-MAIL : acap@acap.jp

以上

◆公益社団法人消費者関連専門家会議(ACAP)

企業や団体のお客様相談部門の責任者・担当で構成する組織として、1980年(昭和55年)の設立以来、企業の消費者志向経営の推進、消費者対応力の向上、消費者、行政、企業相互の信頼の構築に向けて、各種研修、調査、消費者啓発活動、交流活動等を行っています。

英文表記の the Association of Consumer Affairs Professionals の頭文字をとり、ACAP(エイキャップ)の名前で、親しまれています。

会員数	正会員751名(589社) 全会員数875名 (2016年12月21日現在)
理事長	坂倉 忠夫(さかくら ただお) キリン株式会社
特別顧問	高 巖 (たか いわお) 麗澤大学大学院経済研究科教授
所在地等	<p>【事務局】 〒160-0022 東京都新宿区新宿 1-14-12 玉屋ビル5F TEL 03-3353-4999 FAX 03-3353-5049 http://www.acap.or.jp</p> <p>【大阪事務所】 〒540-0028 大阪市中央区常盤町 2-1-8 FGビル大阪7階 TEL 06-6943-4999 FAX 06-6943-4900</p>